

中間評価（案）一覧表（ハード分野）

| 番号 | 領域 | タイプ | 委託研究テーマとその概要 | | 委託先 (研究代表者) | H18 委託額 (千円) | 中間評価 (案) |
|----|----|-----|--------------|--|--|-----------------|-------------|
| 4 | | | テーマ名 | 道路機能に基づく道路盛土の経済的な耐震強化・補強技術に関する研究開発 | 大阪大学 (大阪大学 大学院 教授 常田 賢一) | 30,000 | B |
| | | | 概要 | 盛土部分の車道部分を最優先で保持し、かつ異種構造との境界部に縦断線形を急変させない耐震強化・補強の設計法と施工法開発を行う。 | | | |
| 6 | | | テーマ名 | 市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究 | 社団法人 国土政策研究会 (日本大学 教授 高田 邦道) | 13,120 | B |
| | | | 概要 | 効果的な交通事故対策を立案するため、事故原因の特定、対策及び評価等について、汎用性の高いモデルを構築し、複数自治体に試行する等、関連システムの研究開発を行う。 | | | |
| 8 | | | テーマ名 | A S R劣化構造物安全性能評価手法の開発 | 京都大学 (京都大学 大学院 教授 宮川 豊章) | 15,870 | B |
| | | | 概要 | アルカリ骨材反応(A S R)に起因する構造物の劣化を適切に評価するために、コンクリートの品質特性、鉄筋破断量、コンクリートと鉄筋との一体性を評価項目として、それらを現地で簡便に評価できる非破壊検査手法、並びに補修・補強対策を選択する手順等を研究開発する。 | | | |
| 8 | | | テーマ名 | 多機能検査車走行による道路構造物の健全性評価 | 京都大学 (京都大学 大学院 教授 杉浦 邦征) | 30,000 | C |
| | | | 概要 | 加振機能と高精度な計測機能を有する多機能検査車両を開発し、検査車が走行しながら橋梁の加振と応答計測を行うことで、橋梁の健全性を評価するシステムを構築するとともに、本システムを用いた管理手法を提案する。 | | | |
| 7 | | | テーマ名 | センサーネットワークを利用した次世代型斜面防災システムの構築 | 立命館大学 (立命館大学 教授 深川 良一) | 25,000 | B |
| | | | 概要 | 限られた資源で斜面崩壊を予知し災害を未然に防ぐため、センサー技術、情報通信技術、地盤工学を用いて、低コスト、運用の容易さ、高い信頼性、斜面状況の監視精度向上が実現可能な斜面防災機器・システムの開発を行う。 | | | |
| | | | | | 計 5 課題 | 113,990 | |

* 網掛け部分はH18年度採択の研究課題を示す。

研究継続の妥当性評価

| | |
|-------------------------|---|
| A : 計画どおり継続 | 当初計画は順調に実施され、現行の努力を継続することによって目標達成が可能と評価される。 |
| B : 計画どおり継続 (指摘事項あり) | 当初目標を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意し、一層の努力が必要と判断される。 |
| C : 計画を修正の上継続 | このままでは当初目標を達成することは難しいと思われるので、評価者からの指摘事項に沿って、当初計画の適切なる変更が必要と判断される。 |
| D : 中止 | 現在までの進捗状況に鑑み、今後の努力を待っても当初計画の達成は困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。 |